



青き楓

島高だより
平成29年1月号
(通巻第130号)

長崎県立島原高等学校
編集：研修広報部

校長室から



感性を磨く

校長 野田 定延

「日本一の男になりたいと思った」

「旦那」と藤兵衛はむくれて、「それは気のせいでございますよ」

「当たり前だ。正気で想うものか。坂をおりればすっかり忘れてるに違いないが、しかし、一瞬でもこの絶景を見て、心のうちがわくわくする人間とそうでない人間とは違う」

(司馬遼太郎著「竜馬がゆく」より)

竜馬は、嘉永6年(1853年)、剣術修行のために故郷の土佐を旅立ちます。江戸に向かう途中で、竜馬が初めて富士山を見たときの場面です。

当たり前のことですが、同じものを見たり聞いたりしても何を感じるか、何を考えるかは、一人ひとり違います。例えば、島原にある平成新山も見人によってさまざまの姿を映し出します。見る人のそれまでの経験や育ち、そのときの心の状態などが影響してくると思いますが、心を動かされる人もいれば気にとめない人もいるでしょう。その光景を見てそのまま見過ごすのか、ニュースや話などを聴いて聞き流すのか、何も考えないのか、それとも、何かを感じるか、さらに感じたことによって行動を起こすのか、この差は極めて大きいと思います。身近な例でいえば、ゴミが廊下に落ちているのを見て、そのゴミを拾うか、そのままにしておくかということも同じでしょう。

人工知能(AI)が人間の仕事を奪ってしまうのではないかという報道を最近良く耳にします。しかし、人間にはできて、AIにできない行為がたくさんあると思います。その一つが「対象の意味を考えて判断する」ことではないでしょうか。特に、白か黒か明確に判断出来ないような問題です。そのような問題に出会ったとき、人間は自分の価値観や経験、感情などを総動員して考え、判断します。その判断するベースになるのが「感性」ではないかと思っています。なぜなら、「感性」はその人独自の人間的魅力、つまり個性だからです。皆さんがこれからの時代を生き抜くために、島高時代にやらなければならないことは、自分の「感性」をしっかりと磨くことだと思います。では、どうやって磨いていけばよいのか。それはまず気づくことです。気づきがすべての始まりです。私たちは、日常生活の中で目にしたり、耳にしたりしていることの多くを見過ごしてしまいがちです。それを見過ごさず、聞き逃さずに気づき、自らの視点でそのことについて感じ、行動を起こす訓練をしていくことが「感性を磨く」ことになります。

さて、「竜馬がゆく」の続きです。

竜馬は、剣術修行を終えて、土佐に帰国します。しかし、目的もないまま日々を過ごします。「頭上に星が輝いている。竜馬は星に尋ねたいような気持ちになった。何かないか、と。自分にふさわしい天命がないかと。」竜馬は再び江戸に出て、様々な人たちや出来事に出会います。その中に勝海舟がいました。当時の竜馬は、攘夷主義に傾倒していました。攘夷主義者からみると、西洋の回し者のように見える勝海舟を斬ろうとして勝の屋敷に行きます。勝は、竜馬に地球儀を見せて世界情勢などについて話をします。竜馬は、その話に感動してその場で勝に弟子入りし、「日本を、おれが一変させてみせてくれるぞ。」と考え、行動するようになりました。斬ろうとしている相手の話にさえ感動する龍馬の「感性」の豊かさには驚かされます。竜馬と勝の出会いがなければ、薩長同盟は結ばれていなかったかもしれません。明治維新は起こらなかったかもしれません。

皆さんには、常に周りに高いアンテナを張り、感受性を豊かにし、「感性」を磨いて欲しいと思います。真っ白いカレンダーに、皆さんが感性を磨くために努力した証の一つ一つが確実に残る一年になることを期待します。

69回生 受験シーズン到来! 今こそ島高魂を見せる時!!

3学年主任 田中 丸栄

69回生 199名が1月14・15日に『大学入試センター試験』を長崎大学で受験してきました。前日の出陣式では、PTA会長様、校長先生から激励の言葉をいただきました。また、出発の際は、PTAの皆さんと1・2年生から大きな激励をいただきました。本当にありがとうございました。センター試験も無事に受験を終え、今は次の目標に向かって動き出しています。これからまだ受験は続きますが、いろいろな方々から応援してもらっているということを胸に、がんばってくれることと思います。これからも69回生の応援をよろしくお願いします。



今後の日程

- 前期日程試験
2/25(土)～2/26(日)
- 前期日程試験合格発表
3/5(日)～3/10(金)
- 公立大学中期日程試験
3/8(水)
- 後期日程試験
3/12(日)
- 中期・後期日程試験合格発表
3/20(月)～3/23(木)



フィルタリング設定と家庭でのルール作りを!

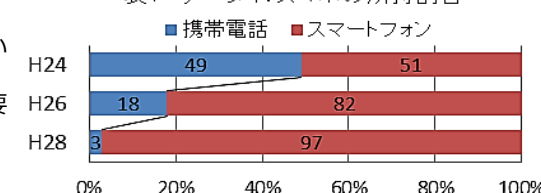
生徒指導部主任 祝 利久

毎年、生徒を対象に行っているアンケートから、いくつかのデータを掲載します。

①在籍生徒の89%が「自分用のケータイ・スマホを持っている」と答えました(県平均93%)。

ケータイ・スマホの所持割合は[表1]のとおり。「いつから所有したか」は、小学校5%、中学校32%、高校入学63%で、高校での意識・マナー指導の重要性がご理解いただけたと思います。

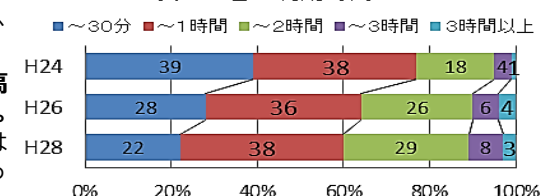
表1 ケータイ・スマホの所持割合



②1日の利用時間は[表2]のような推移。

「1時間程度」と意識している生徒が60～70%(大半)であるものの、数年前と比べて「30分以内」の割合が減り、「2時間以内」の割合が増えつつあり、学習への影響が懸念されます。

表2 1日の利用時間は?



③本校生のフィルタリング設定率は62%で、県内高校生の設定率72%に比べて低いのが気になります。

「家庭で利用ルールを決めている」と答えた生徒は約30%です。PTA等での啓発活動の成果もあって、ルール作りの気運は高まりつつあります。

お願い

- ◆「学校へは持ち込まない」、「21時以降は使用しない」を徹底させましょう。
- ◆安易な理由でフィルタリングサービス(無料)を解除しないようにしましょう。
- ◆「使用時間は1時間以内とする」、「充電場所は家族のいる部屋にする」、「困った事態になる前に家族に相談する」など、『我が家の使用ルール』を作りましょう。



お願いⅡ 車での送迎は、今後とも、島原文化会館駐車場奥(事務所側)での乗降をお願いします。入口の屋外トイレ付近でのUターン・割込は危険です。また、下校時(迎え)につきましても同様に駐車場奥(事務所側)での待ち合いをお願いします。

主な部活動実績等

（1月10日表彰分まで掲載）

剣道部

第17回全国高等学校剣道よさこい高知国体開催記念大会

男子 優勝
女子 準優勝

平成28年度第25回諫早市中学校・中地区高等学校
学年別剣道大会

高校2年男子	優勝	志築 柊威
	準優勝	丸井 謙志
	第3位	下田 広大
高校1年男子	準優勝	藤原 融哉
	第3位	黒川 雄大
		前田 聖直
高校2年女子	優勝	内藤 達樹
	準優勝	大園 望友
高校1年女子	優勝	山口 小波
		岩永 遥佳

レスリング部

第27回ひむか杯・2017年JOCジュニアオリンピック
レスリング競技九州予選会

ジュニアの部

フリースタイル

66kg級	第1位	金子 将大
84kg級	第1位	大津 拓馬

グレコローマンスタイル

66kg級	第1位	金子 将大
84kg級	第1位	大津 拓馬

女子の部

51kg級	第3位	伊藤 希
-------	-----	------



写真部

長崎県高等学校総合文化祭 第12回県写真展

佳作 本村 観将

2年中地区学習交流会

2学年主任 小森 貴

1月8日（日）～9日（月）に本校を会場として2年生の中地区学習交流会が開催されました。諫早高校、大村高校、西陵高校、口加高校、五島高校、対馬高校、中五島高校、そして島原高校から難関大学合格を目指す総勢139名が集い、国語・英語・数学の授業を受けました。1日目の最後には10名程度の班に分かれて交流会も行われ、それぞれの学校生活について情報交換をし、将来の夢について語り合いました。生徒の感想には「他校の成績上位者と一緒に授業を受けて、自分の力不足を痛感した」「島原高校は課題が少ない方だと知り、もっと自主的な学習をするべきだと思った」「こんなに多くの人が難関大学合格を目標に日々頑張っていることを知り、自分もより高い目標を持って努力しようと思った」などの言葉があり、普段はできない貴重な経験をして良い刺激となったことが窺えます。

この学習会は来年度も本校で開催される予定です。



交流会の様子

2月の主な行事予定



4日（土）土曜講座（1・3年）
進研マーク模試（2年～5日）
7日（火）推薦入学者選抜検査
1・2年：自宅学習
3年：3時間目まで短縮授業
8日（水）PTA評議員会・専門委員会
11日（土）土曜講座（全学年）
13日（月）雲仙100年の森卒業記念植樹
14日（火）学年末考査時間割発表
部活動休止（～23日）

18日（土）土曜講座（3年）
21日（火）学年末考査（1・2年～24日）
23日（木）特別編成授業終了（3年）
24日（金）進路講演会（1年）
卒業研究発表会（3年）
25日（土）国公立大学前期日程試験
土曜講座（1・2年）
小論文模試（2年）
28日（火）大掃除・式場設営・卒業記念品贈呈式
同窓会入会式
※3/1 第69回卒業証書授与式

理数科1年★地学巡検

理数科担当 寺井 邦久



1月17日（火）6・7校時を使って理数科1年生による地学講座の発表会を実施しました。地学講座の年間テーマは「私の町のジオパーク」。7月まで地学に関する基礎的な内容を学習し、8月から実際に自分の家の近くにあるジオサイトを探す作業に入りました。クラスを10の班に分け、一班の中には雲仙市、南島原市、島原市のメンバーが入るように構成しました。生徒が取り上げた場所は、島原半島ジオパークのジオサイトに認定された場所もあれば、自分の家の裏にある湧き水をテーマにした発表もありました。発表はパワーポイントを使い、「地図→全体の様子→強調したい部分→まとめ」という画面構成で、文字の大きさ・色・写真の配置など、それぞれに自分の主張をわかりやすくまとめていました。生徒の目で見つけたジオパークには新発見もあり、大変興味深い発表でした。



【生徒感想より】

○他の人の発表を見てとても勉強になった。
○島原半島の地形だけでなく、発表の仕方も学べてよかった。
○自分の家の近くにも、ジオパークが沢山あることがわかった。
○島原半島は、自然にすごく恵まれていることがわかった。

理数科2年★サイエンスキャンプ

理数科主任 植松 耕平

12月10日（土）、11日（日）に長崎市で行われた「平成28年度サイエンスキャンプ」に2年理数科の生徒3名が参加しました。このキャンプには県内7校から42名の生徒が参加し、九州大学の市川香准教授を講師として各自テーマを決めた研究・ポスターセッションを行いました。

【生徒感想より】

○限られた時間の中でポスターを作成するなど、普段とは違う貴重な体験をすることができました。同じような境遇にある人が違う視点で質問してくれたりして、価値観の共有ができてよかったです。



生徒会誌『楓』 編集奮闘記！

「楓」編集長 森田 有紀
（二一六）



現在、我々生徒会は生徒会誌「楓」の発行に向けて日々奮闘しています。

10月頃から動き出しましたが、最初にぶつかった壁は「生徒会特集」の内容についてです。ここは毎年異なる内容を組み込むため、かなり頭を悩ませました。

実際の制作に取りかかってからも、内容の話し合いで遅くまで残ったり、長時間パソコンとにらめっこしたりと困難が続きました。多くの常任委員がなかなか先生から「OK」をもらえず悪戦苦闘しているようです。

生徒会誌「楓」は3月頃発行予定です。今年は前年度のものから多くの変更を行いました。少しでも多くの方に楽しんで読んでもらえるよう、引き続き全力を尽くしたいと思います。

